幼子はイエスと名付けられた

ルカによる福音書　２：２１

司祭　ヨハネ 井田　泉

2025 年 1 月 1 日
主イエス命名の日

上野聖ヨハネ教会にて

今日は二重のお祝いの日です。新しい年の初めのお祝い。そしてそれ以上にわたしたちにとって大事なのは、世の救い主として来られた赤ちゃんに正式に名前が付けられた、名付けのお祝い。今日は主イエス命名の日です。

「八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。」

ルカ 2:21

「天使から示された名」とありますように、すでにその名前は決められていました。マリアは聞きました。ヨセフも夢の中で聞きました。

「その子をイエスと名付けなさい」

「イエス」とは、「主は救い」「神は救ってくださる」という意味です。この幼子は、人々を罪から解放し、この地上に神の救いを実現する方なのです。

この日のイエスという名付け（命名）は、遠い昔の遠い国でのささやかな出来事でした。ところがここには神の計画と意志が働いていたので、イエスの名はわたしたちにまで届き、わたしたちの人生を左右することになりました。

ところでクリスチャンとは何でしょうか。クリスチャンとは、このイエスの名を呼ぶ者です。この名を呼びつつ生きて行く。この名を呼ぶことによって人生の道が開かれる。それがわたしたちです。

そこで今日は、聖書の中でイエスの名を呼んだ人と、反対にこのイエスから自分の名前を呼ばれた人のことを思い浮かべてみましょう。その人たちはわたしたちの信仰の先輩です。

まずイエスの名を呼んだ人。第1にマリアです。マリアは赤ちゃんがお腹の中にいたときからイエスの名を呼びかけ、今日の命名の日にイエスの名を呼び、そしてイエスが成長していく毎日毎日、イエスの名を呼び続けたに違いありません。あるときは声を出して、あるときは心の中で。イエスの名を呼ぶとき愛が注がれ、あるときは心配があり、祈りと願いがありました。そのマリアの呼びかけを聞きつづけて、イエスは成長しました。イエスが家を離れて宣教活動をし始めてからも、そして最後に十字架にかけられたときも、死んで葬られた後も、マリアはイエスの名を呼び続けたに違いありません。

それからイエスの名を呼んだ人は、例えばエリコの盲人で、道端で物乞いをしていたバルティマイです。イエスが通られると聞いて、必死でイエスの名を呼びました。

「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」

マルコ 10:47

イエスは彼を呼ばれました。そして彼の願いを聞き、彼の目を開かれました。その時からバルティマイはイエスに従う者と

なりました。

もう一人、思い出すのは、イエスと一緒に十字架にかけられた無名の、犯罪人と言われる人です。彼は十字架の上で息絶えようとするとき、こう言いました。

「イエスよ、あなたの御国(みくに)においでになるときには、わたしを思い出してください」ルカ 23:42

彼がどのような生涯を送ってきたのかはわかりません。十字架刑になったのですから、ロー帝国に反抗する暴徒として捕らえられたのでしょう。彼が自分の人生を悔いていたのか、それとも悔いはなかったのか、わかりません。ただ一つ目をとめたい。彼は、傍らに一緒に殺されて死んでいくイエスに、自分の最後の望みをかけたのです。

「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」

イエスよ、わたしを覚えていてほしい。わたしを思い出してください。彼の最後の望みはこれでした。それに対してイエスは答えられました。

「アーメン、あなたに言う。あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」ルカ 23:43

今、あなたはわたしと一緒におり、息を引き取る瞬間も一緒におり、死んで後もわたしはあなたと一緒にいる。あなたは今日、わたしと一緒に楽園に、神の祝福と平安のうちにいる。

それは、わたしたちにも言われていることです。

わたしたちもイエスの名を呼びましょう。わたしたちがイエスの名を呼ぶとき、イエスは無視されない。呼ぶわたしたちのほうを向き、わたしたちを慈しんで、わたしたちに必要なものを用意してくださる。イエスの名を呼んで、この１年を始め、イエスの名を呼んでこの１年を歩んでいきましょう。

もう一つ大切にしたいことがあります。それは、わたしたちのほうからイエスの名を呼ぶというだけではなく、イエスのほうからわたしたちの名を呼んでくださる、ということです。

聖書の中でイエスから名前を呼ばれた人。それは例えばマグダラのマリアであり、マリアの姉妹マルタであり、また弟子のシモン・ペテロです。でも今は別の人を思ってみます。それは、今日の使徒書、「ローマの信徒への手紙」の著者パウロです。ご存じのように彼は元々サウロという名前で、イエスを信じる者を激しく迫害していた人でした。その彼がダマスコに向かう途中、光に打たれて倒れ、自分を呼ぶ声を聞きました。

「サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか」

「主よ、あなたはどなたですか」

「わたしは、あなたが迫害しているイエスである」

使徒言行録 9:4-5

イエスが、自分を憎み迫害するサウロの名を呼ばれた。これが彼の人生に 180 度の転換をもたらしました。やがて彼はパウロと呼ばれるようになり、多くの教会を設立し、また多くの手紙を書きました。その手紙の中の最も重要なものと言われるのが、今日聞いたローマの信徒への手紙です。今日の箇所、第1章1～7 節の間に、イエスの名が 4 回も出てきました。自分の名を呼んでくださったイエス。この方の名を彼は言わずにはおれない。心が燃えてくるのです。

今日、わたしたちが心にとめたいことは、イエスがわたしたちの名を呼ばれる、皆さん一人ひとりの名を呼んでおられる、ということです。信仰深く正しい人だけではなく、信仰浅い者も、過ちを犯す者も、無関心な人も、迫害する人も、イエスは呼ばれる。それぞれ重荷や迷い、つらさを抱えているわたしたちを、皆さんをイエスは愛して、皆さんの名を、わたしの名を呼んでくださるのです。

わたしたちはイエスの名を呼びます。また逆にイエスがわたしの名を呼ばれます。イエスとわたし、イエスと皆さんの間に関係が、交流が生まれる。そこに命が通います。喜びが起こります。わたしたちの思いはイエスのうちに受けとめられ、イエスの愛がわたしたちの中に浸透します。これがわたしたちに与えられている祝福です。

お祈りします。

主イエスさま、あなたのみ名を賛美します。わたしたちは今日から1年、あなたの名を呼びながら歩んでいきます。また、どうか、あなたがわたしたちの名を呼んでいてくださるその声を聞かせてください。喜びと労苦をあなたと共にさせてください。わたしたちの信仰を守り祝福し、導いてください。アーメン